

ハイドン：交響曲第 101 番 二長調 Hob.1:101「時計」

60 歳を間近にして長年楽長をつとめたエステルハージ侯爵家の職務から解放されたパパ・ハイドンことヨーゼフ・ハイドン（1732-1809）は、創作から手を引くどころかますます活発な音楽活動を展開していく。ロンドンで演奏会を主催するペーター・ザロモン（1745-1815）の招きで 1791 年から 95 年までの間に 2 度にわたってロンドンに長期滞在したハイドンは、計 12 曲の新作交響曲を指揮し、ロンドンの聴衆を喜ばせた。

《交響曲第 101 番》はその第 2 期にあたる 1794 年に初演された。約 40 人で構成されるザロモン・オーケストラの規模にふさわしく、楽器編成はフルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、トランペット 2、ティンパニ、弦 5 部と完全な 2 管編成になっている。

「時計」のニックネームは第 2 楽章の伴奏の規則的なリズムが時計を連想させることから後に付けられたものだが、以前ロンドンの聴衆を急な大音量でびっくりさせた「驚愕」と同様、ハイドンのユーモラスな仕掛けのようにもみえる。

第 1 楽章：アダージョ～プレスト、二長調。ソナタ形式の快速な主部に先立つ神秘的な序奏はハイドンが得意としたもの。聴衆をひきこむ作戦か…

第 2 楽章：アンダンテ、ト長調。時計のように規則的な伴奏リズムを持つのどかな主題が変奏されていく。

第 3 楽章：メヌエット、アレグレット、二長調。トリオ（中間部）ではフルート独奏が主役となる。

第 4 楽章：フィナーレ、ヴィヴァーチェ、二長調。楽器どうしが緊密に連携して華麗なフィナーレを作り上げる。

遠山菜穂美

楽器編成：フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、トランペット 2、ティンパニ、弦 5 部

※スコア上の表記

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。